

**OLYMPUS**



## 2023年3月期 連結決算概況 2024年3月期 通期業績見通し

オリンパス株式会社 | 執行役 CFO 武田 睦史 | 2023年5月12日

# 免責事項

- 本資料のうち、業績見通しなどは、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定な要素および今後の事業運営や内外の状況変化などによる変動可能性に照らし、実際の業績などが目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料内に、医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。また、あくまでも当社の技術開発の一例としてご紹介するものであり、将来の販売をお約束するものではありません。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

## 2023年3月期 通期実績

✓ 通期にわたり厳しい事業環境が継続したものの、グローバルで複数のリスク最小化に向けた対策を講じ、**2019年の経営戦略で掲げた調整後営業利益率20%を達成**

- 売上高： 連結で+18%成長。医療分野の売上高は4Q及び累計において過去最高の売上高  
内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
- 営業利益： 2023年3月期累計の営業利益は、額・率ともに過去最高\*

## 2024年3月期 通期業績見通し

✓ 内視鏡事業、治療機器事業ともに成長し、医療分野は過去最高の売上高となる見込み。  
**QARAをはじめとする運営基盤強化のための費用などが増加するものの、調整後営業利益は前期比3%増の見通し**

- 売上高： 前期比4%（為替影響調整後5%）増の9,140億円を見込む
- 調整後営業利益： 前期比3%（為替影響調整後6%）増の1,820億円を見込む
- 当期利益\*\*： 科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,360億円、EPSは前期比141%増の  
273円となる見通し
- 株主還元： 年間配当は前年比2円増の18円を予定。自己株式の取得約1,000億円を見込む

\*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から \*\*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS。2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです。



01

---

2023年3月期  
連結業績および事業概況

# 2023年3月期 通期実績 ①連結業績概況

- 1 売上高：連結で+18%成長。医療分野の売上高は4Q及び累計において過去最高の売上高。内視鏡・治療機器事業ともに2桁成長を達成
- 2 営業利益：2019年の経営戦略で掲げた調整後営業利益率は20%を達成。2023年3月期累計の営業利益は、額・率ともに過去最高\*

通期実績（4-3月）

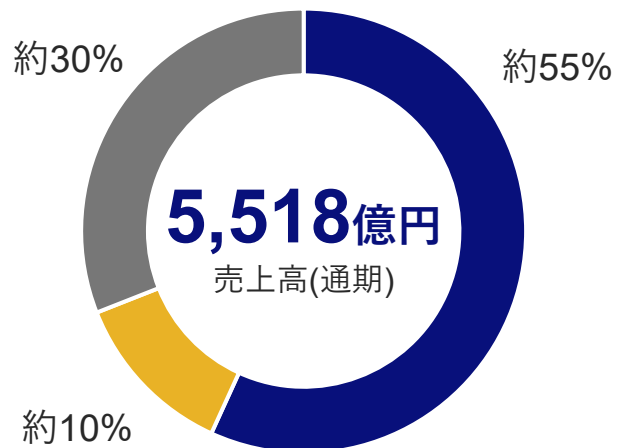
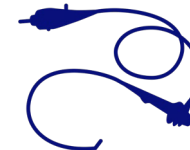
第4四半期実績（1-3月）

	(単位：億円)		FY2022		FY2023		前期比		為替影響調整後		
** 継続事業	売上高	7,501	1	8,819	+18%	+4%	2,029	1	2,404	+18%	+9%
	売上総利益 (売上総利益率)	5,067 (67.6%)		5,968 (67.7%)	+18%	+2%	1,406 (69.3%)		1,631 (67.9%)	+16%	+3%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	3,575 (47.7%)		4,205 (47.7%)	+18%	+7%	984 (48.5%)		1,145 (47.6%)	+16%	+8%
	その他の収益および費用など	▲30		103	-	-	17		▲46	-	-
	営業利益 (営業利益率)	1,462 (19.5%)	2	1,866 (21.2%)	+28%	▲3%	440 (21.7%)		440 (18.3%)	0%	▲23%
	調整後営業利益 (調整後営業利益率)	1,507 (20.1%)	2	1,768 (20.0%)	+17%	▲12%	432 (21.3%)		487 (20.2%)	+13%	▲11%
	税引前利益 (税引前利益率)	1,417 (18.9%)		1,823 (20.7%)	+29%		447 (22.0%)		429 (17.9%)	▲4%	
	継続事業からの当期利益 (継続事業からの当期利益率)	1,106 (14.8%)		1,380 (15.7%)	+25%		277 (13.6%)		324 (13.5%)	+17%	
	非継続事業からの当期利益	53		56	+3億円		5		29	+523%	
	当期利益	1,160		1,436	+24%		281		352	+25%	
親会社の所有者に帰属する当期利益	1,157		1,434	+24%		281		352	+25%		
EPS	90円		113円			-		-			

\*四半期報告書の開示を開始した2009年3月期から  
 \*\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載  
 \*\*\*2023年4月に非継続事業（エビデン）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益は2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです

2023年3月期配当  
 年間配当16円

# 2023年3月期 通期実績 ②内視鏡事業



\*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	4Q	通期	4Q	通期
売上高	1,278	4,615	1,528	5,518
営業利益	416	1,332	421	1,528
その他の損益**	11	▲29	▲15	▲38
営業利益率 (為替影響調整後)	32.5%	28.9%	27.5% (24.0%)	27.7% (24.0%)
<b>調整後営業利益率</b>	<b>31.7%</b>	<b>29.5%</b>	<b>28.5%</b>	<b>28.4%</b>

\*\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

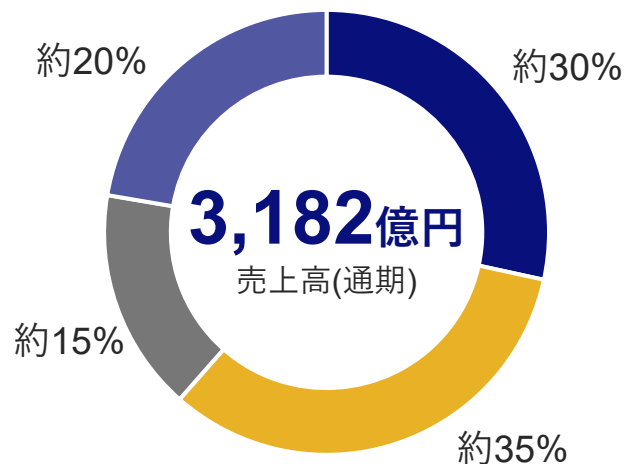
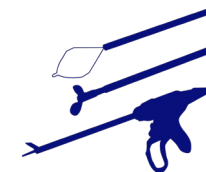
## FY2023 vs FY2022 (1-3月) 売上高成長率

円ベース  
為替込み

為替影響  
調整後

■ 消化器内視鏡	19%	<ul style="list-style-type: none"> <li>「EVIS X1」シリーズの販売が好調に推移している欧州をはじめ、全地域でプラス成長。「EVIS X1」シリーズに加え、一世代前の上部消化管ビデオスコープや大腸ビデオスコープの販売が堅調に推移</li> </ul>	9%
■ 外科内視鏡	33%	<ul style="list-style-type: none"> <li>外科内視鏡システム「VISERA ELITE III」の発売に成功し、販売が好調に推移している日本が増収に寄与</li> </ul>	22%
■ 医療サービス	15%	<ul style="list-style-type: none"> <li>保守サービスを含む既存のサービス契約の安定的な売上や、新規契約の増加もあり、中国をはじめ全地域でプラス成長</li> </ul>	5%
合計	20%		10%

# 2023年3月期 通期実績 ③治療機器事業



\*四捨五入のため、合計値が100%にならないことがあります

(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	4Q	通期	4Q	通期
売上高	719	2,756	843	3,182
営業利益	170	608	156	637
その他の損益**	17	30	▲18	▲6
営業利益率 (為替影響調整後)	23.6%	22.1%	18.5% (16.9%)	20.0% (18.5%)
<b>調整後営業利益率</b>	<b>21.2%</b>	<b>21.0%</b>	<b>20.6%</b>	<b>20.2%</b>

\*\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値 / \*\*\*FY2023より、治療機器事業のその他の治療領域に分類していた婦人科製品について、治療機器事業の泌尿器科に含めています。  
FY2022の実績も同様に組替え済

## FY2023 vs FY2022 (1-3月) 売上高成長率

## 円ベース 為替込み

## 為替影響 調整後

■ 消化器科 (処置具)	17%	<ul style="list-style-type: none"> <li>症例数が増加している北米で好調に推移し、全ての製品群でプラス成長。特にERCPやサンプリング (生検鉗子など) 用の製品群の売上が拡大</li> </ul>	9%
■ 泌尿器科**	22%	<ul style="list-style-type: none"> <li>症例数の回復が進み、特に北米で好調に推移。BPH用の切除用電極と尿路結石用破碎装置「SOLTIVE SuperPulsed Laser System」の拡販が奏功</li> </ul>	10%
■ 呼吸器科	11%	<ul style="list-style-type: none"> <li>COVID感染拡大に伴う呼吸器関連の予算や政府による低金利融資施策の後押しがあった中国が増収に貢献。超音波気管支鏡の販売が堅調に推移</li> </ul>	2%
■ その他の治療領域	16%	<ul style="list-style-type: none"> <li>エネルギーデバイスが好調に推移。特に「THUNDERBEAT」の売上が寄与</li> </ul>	7%
合計	17%		7%

# 財政状態計算書

- ☑ 非継続事業の資産、負債を、売却目的で保有する資産、それに直接関連する負債として記載
- ☑ 為替の影響（約720億円）が含まれていることから、バランスシートは実質約780億円の増加

(単位：億円)	2022年3月末	2023年3月末	増減額		2022年3月末	2023年3月末	増減額
流動資産	6,946	7,264	+318	流動負債	3,763	4,619	+856
棚卸資産	1,674	1,630	▲44	社債および借入金	523	500	▲23
売却目的で保有する 資産	47	1,696	+1,649	売却目的で保有する 資産に直接関連する 負債	0	433	+433
非流動資産	6,634	7,820	+1,186	非流動負債	4,704	4,052	▲652
有形固定資産	2,471	2,387	▲84	社債および借入金	3,338	2,901	▲438
無形資産・その他	2,518	3,607	+1,089	資本	5,114	6,412	+1,299
のれん	1,645	1,825	+180	自己資本比率	37.6%	42.4%	+4.8pt
<b>資産 合計</b>	<b>13,580</b>	<b>15,083</b>	<b>+1,503</b>	<b>負債および資本合計</b>	<b>13,580</b>	<b>15,083</b>	<b>+1,503</b>



# 連結キャッシュフロー計算書

- ☑ FCF： 営業CFは985億円のプラスとなり、特殊要因を考慮した調整後FCFは853億円のプラス
- ☑ 財務CF： 自己株式の取得（500億円）や配当金支払い、社債の償還（400億円）による支出などにより、1,432億円のマイナス

## 通期実績（4-3月）

		(単位：億円)			
		FY2022	FY2023	増減	
継続事業	非継続事業	税引前利益	1,417	1,823	+406
		営業キャッシュフロー	1,697	985	▲712
		投資キャッシュフロー	▲710	▲584	+126
		フリーキャッシュフロー	987	401	▲586
		<b>調整後フリーキャッシュフロー</b>	<b>1,312</b>	<b>853</b>	<b>▲459</b>
		財務キャッシュフロー	▲407	▲1,432	▲1,025
		現金および現金同等物期末残高	3,026	2,055	▲971

### 2022年3月期の主な特殊要因

営業CF： 社外転進支援制度の引当取崩など	▲112億円
投資CF： 事業・子会社の取得など	▲235億円

### 2023年3月期の主な特殊要因

営業CF： 科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など	▲424億円
営業CF： 海外子会社における年金資産の追加拠出	▲122億円
投資CF： 幡ヶ谷土地売却による収入	+191億円
投資CF： 投資有価証券、事業・子会社の取得など	▲76億円
投資CF： 科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など	▲21億円

\*非継続事業のキャッシュフローはAppendix（P.22）をご覧ください



02

2024年3月期 通期業績見通し

# 通期業績見通し ①連結業績

- 1 売上高： 前期比4%（為替影響調整後5%）増の9,140億円を見込む
- 2 調整後営業利益： 前期比3%（為替影響調整後6%）増の1,820億円を見込む
- 3 当期利益\*： 科学事業の譲渡に伴う譲渡益を計上し過去最高の3,360億円、EPSは前期比141%増の273円となる見通し
- 4 株主還元： 年間配当は前年比2円増の18円を予定。自己株式の取得約1,000億円を見込む

		(単位：億円)		2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期見通し	増減	前期比	為替影響調整後
** 継続事業	売上高		8,819	1	9,140	+321	+4%	+5%
	売上総利益 (売上総利益率)		5,968 (67.7%)		6,270 (68.6%)	+302	+5%	+7%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)		4,205 (47.7%)		4,460 (48.8%)	+255	+6%	+7%
	その他の収益および費用など		103		▲180	-	-	-
	営業利益 (営業利益率)		1,866 (21.2%)		1,630 (17.8%)	▲236	▲13%	▲9%
	<b>調整後営業利益 (調整後営業利益率)</b>		<b>1,768 (20.0%)</b>	<b>2</b>	<b>1,820 (19.9%)</b>	<b>+52</b>	<b>+3%</b>	<b>+6%</b>
	税引前利益 (税引前利益率)		1,823 (20.7%)		1,590 (17.4%)			
継続事業からの当期利益		1,380 (15.7%)		1,150 (12.6%)				
*** 非継続事業	非継続事業からの当期利益		56		2,210			
継続事業	当期利益		1,436	<b>3</b>	3,360			
	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)		1,434 (16.3%)		3,360 (36.8%)			
	EPS		113円		273円			

\*親会社の所有者に帰属する当期利益。2016年3月期までは日本基準、2017年3月期以降はIFRS  
 \*\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載  
 \*\*\*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです

**2024年3月期配当**

**4** 年間配当18円を予定

# 通期業績見通し ②セグメント別業績

**1** 医療分野： 過去最高の売上高となる見込み

「EVIS X1」は米国食品医薬局（FDA）による510(k)クリアランスを取得済み。米国における導入は2024年3月期中頃を予定

**2** 非継続事業：譲渡益を計上し、大幅増益を見込む

(単位：億円)		2023年3月期 通期実績	2024年3月期 通期見通し*	増減	前期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	5,518	<b>1</b> 5,720	+202	+4%	+5%
	営業利益	1,528	1,580	+52	+3%	+6%
治療機器	売上高	3,182	<b>1</b> 3,290	+108	+3%	+5%
	営業利益	637	560	▲77	▲12%	▲8%
その他	売上高	119	130	+11	+9%	+8%
	営業損益	▲9	10	+19	+19億円	+19億円
全社・消去	営業損益	▲289	▲520	▲231	▲231億円	▲232億円
連結合計	売上高	8,819	9,140	+321	+4%	+5%
	営業利益	1,866	1,630	▲236	▲13%	▲9%
(参考) 非継続事業	売上高	1,354	0	▲1,354	-	-
	営業利益	70	<b>2</b> 3,470	+3,400	-	-

\*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです。



**OLYMPUS**

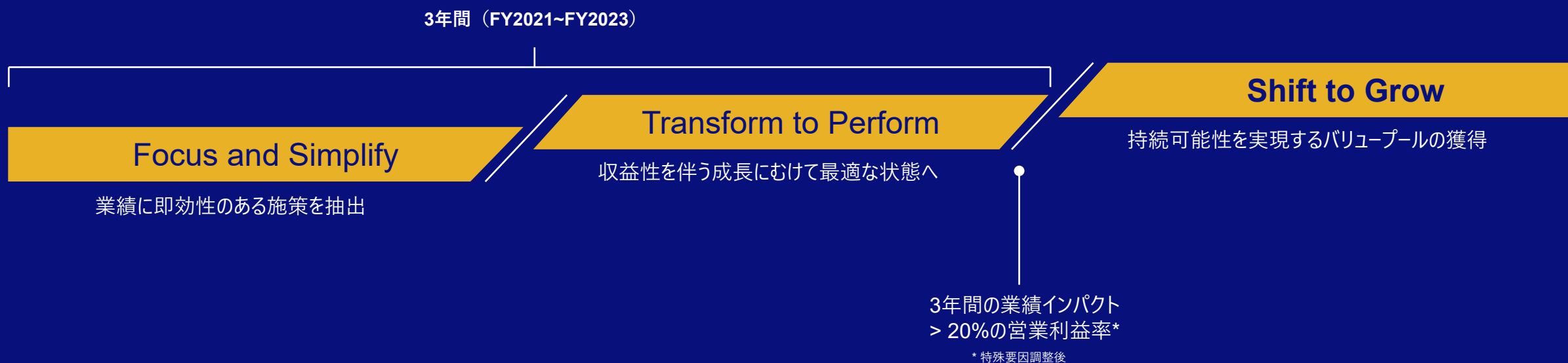
A thick, yellow, brushstroke-style underline that tapers at both ends, positioned directly beneath the word "OLYMPUS".



**参考資料 過去3年間の振り返り**

# 2023年までの意欲的なタイムライン

長期的かつ持続的な成長に必要な組織構造、運用体制、従業員のマインドセットを引き出し、潜在能力を最大化する



# 戦略目標と業績指標の達成



年率 **5-6%**の売上高成長率を持続



**>20%**の営業利益率\* を目指す



当社が注力する治療領域において  
**リーディングポジション**を獲得  
(消化器科、泌尿器科、呼吸器科)

\* 特殊要因調整後の継続事業ベース

\*\* FY2020を起点とした3年間における為替影響調整後の継続事業ベースのCAGR

\*\*\* FY2020を起点とした3年間のCAGR



マクロ経済の低迷やCovidによるロックダウンの影響を受けながらも、売上高CAGRは+4.6%\*\*と伸長



3年間の企業変革により、連結営業利益は倍増、連結営業利益率は20%を達成\*



収益性の大幅な改善と800億円の自社株買いにより、調整後EPS成長率\*\*\*は25%超に到達



将来の持続的な成長を実現するため、R&Dへの成長投資を業界の同業他社と同レベルの水準を維持



映像事業と科学事業の譲渡により、医療機器専門企業に変革

# 参考資料

---

# 開示の変更点

科学事業（イベント）の譲渡に伴い、第2四半期より科学事業を非継続事業として開示（国際会計基準）

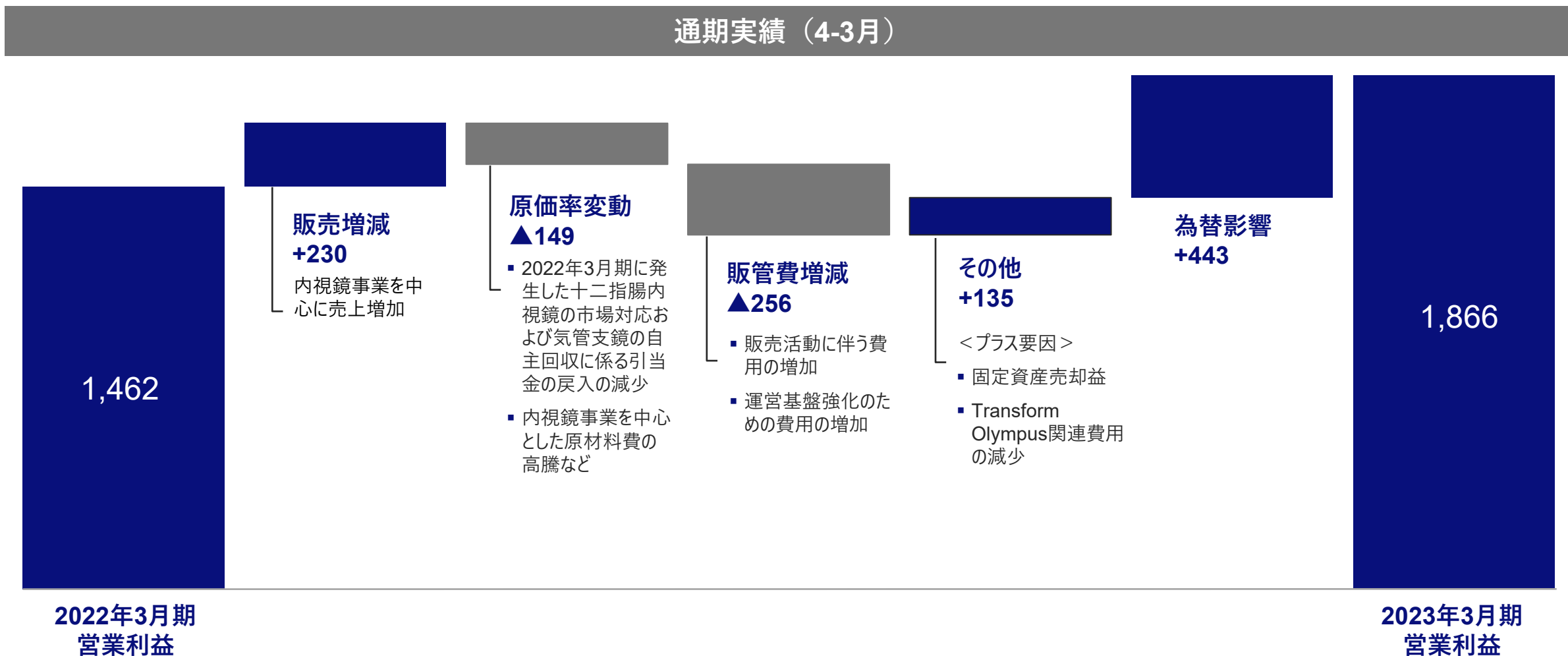


- 連結業績では、非継続事業からの当期利益 (損失)を開示
- 参考資料として、非継続事業（科学事業）の業績を開示

\*2023年3月期第2四半期連結会計期間において、当社は、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行う投資ファンドが間接的に株式を保有する特別目的会社である株式会社BCJ-66との間で科学事業の譲渡に関する株式譲渡契約を締結しました。これに伴い、当第2四半期連結会計期間より、科学事業に関わる損益を非継続事業に分類するとともに、前連結累計期間についても同様の形で再表示しています。なお、売上高、営業利益、税引前利益、継続事業からの四半期利益については、非継続事業を除いた継続事業の金額を、四半期利益及び親会社の所有者に帰属する四半期利益については、継続事業及び非継続事業を合算した数値を表示しています。なお、2023年4月に全株式の譲渡を完了しています

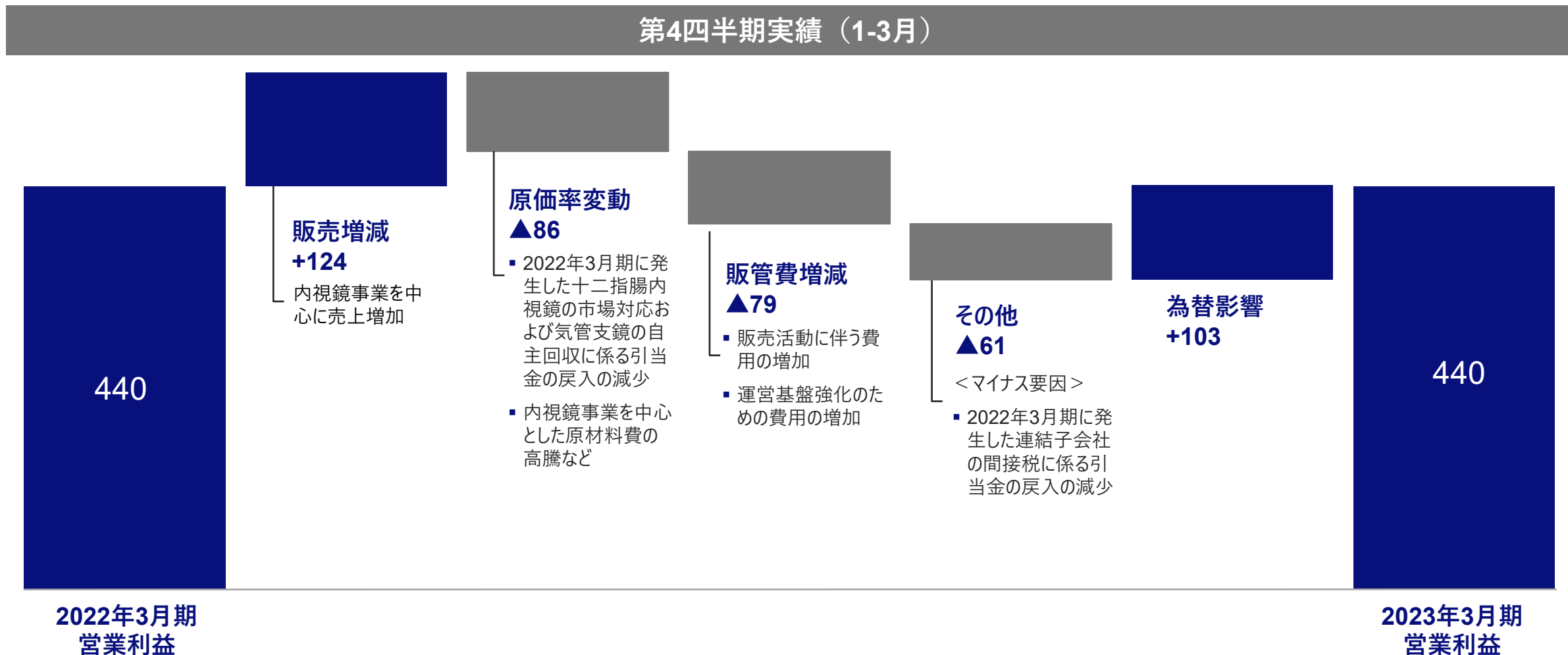


# 2023年3月期 通期実績 連結営業利益増減要因



(単位：億円) \*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

# 2023年3月期 第4四半期実績 連結営業利益増減要因



(単位：億円) \*その他には、決算短信に記載の「持分法による投資損益」、「その他収益」、「その他費用」が含まれています

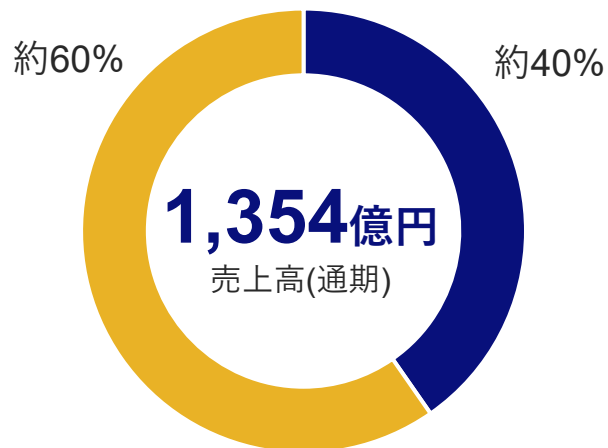
# 2023年3月期 通期実績 連結業績概況（2月公表見通し比）

(単位：億円)		2023年3月期 2月公表見通し	2023年3月期 通期実績	増減	2月公表見通し比	為替影響調整後
* 継続事業	売上高	8,710	8,819	+109	+1%	+1%
	売上総利益 (売上総利益率)	5,940 (68.2%)	5,968 (67.7%)	+28	0%	0%
	販売費および一般管理費 (販売費および一般管理費率)	4,110 (47.2%)	4,205 (47.7%)	+95	+2%	+2%
	その他の収益および費用など	150	103	-	-	-
	営業利益 (営業利益率)	1,980 (22.7%)	1,866 (21.2%)	▲114	▲6%	▲6%
	<b>調整後営業利益 (調整後営業利益率)</b>	<b>1,840 (21.1%)</b>	<b>1,768 (20.0%)</b>	<b>▲72</b>	<b>▲4%</b>	<b>▲4%</b>
	税引前利益 (税引前利益率)	1,970 (22.6%)	1,823 (20.7%)			
継続事業からの当期利益	1,490 (17.1%)	1,380 (15.7%)				
非継続事業からの当期利益	2,270	56				
* 非継続事業	当期利益	3,760	1,436			
	親会社の所有者に帰属する当期利益 (親会社の所有者に帰属する当期利益率)	3,760 (43.2%)	1,434 (16.3%)			
	EPS	297円	113円			

\*「売上高」から「継続事業からの当期利益」までの数値は、継続事業の数値を記載

\*\*2023年4月に非継続事業（エビデント）の全株式の譲渡が完了したことに伴い、本株式譲渡に係る譲渡益を2024年3月期第1四半期連結会計期間に計上する見込みです

# 2023年3月期 通期実績 非継続事業 (科学事業)



FY2023 vs FY2022 (1-3月)  
売上高成長率

円ベース  
為替込み

			為替影響 調整後
■ ライフサイエンス	14%	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究所、大学、病院での予算執行が堅調に推移。供給状況が改善したことに伴い、受注残の解消が進んだ北米が増収に貢献</li> </ul>	4%
■ 産業	31%	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客市場における設備投資状況は引き続き好調。供給状況が改善し、出荷が進んだ中国における工業用顕微鏡や、高価格帯システム製品の受注が好調な欧州における非破壊検査機器が牽引し、増収</li> </ul>	20%
合計	23%		12%

\*決算短信に記載の「その他の収益/費用」の数値

(単位: 億円)	FY2022		FY2023	
	4Q	通期	4Q	通期
売上高	362	1,187	444	1,354
営業利益	10	77	56	70
その他の損益*	▲48	▲94	▲27	▲110
営業利益率 (為替影響調整後)	2.9%	6.5%	12.5% (9.2%)	5.2% (0.7%)
<b>調整後営業利益率</b>	<b>16.2%</b>	<b>14.4%</b>	<b>18.6%</b>	<b>13.3%</b>

非継続事業のキャッシュフロー 通期実績 (4-3月)

	FY2022	FY2023	増減
営業キャッシュフロー	103	▲132	▲234
投資キャッシュフロー	▲77	▲117	▲40
財務キャッシュフロー	▲8	▲29	▲21

# 2023年3月期 通期実績 セグメント別概況

## 通期実績（4-3月）

(単位：億円)		通期実績（4-3月）			
		2022年3月期	2023年3月期	前期比	為替影響調整後
内視鏡	売上高	4,615	5,518	+20%	+6%
	営業利益	1,332	1,528	+15%	▲12%
治療機器	売上高	2,756	3,182	+16%	+3%
	営業利益	608	637	+5%	▲14%
その他	売上高	130	119	▲8%	▲12%
	営業損益	▲20	▲9	+11億円	+12億円
全社・消去	営業損益	▲458	▲289	+169億円	+190億円
連結合計	売上高	7,501	8,819	+18%	+4%
	営業利益	1,462	1,866	+28%	▲3%
(参考) 非継続事業	売上高	1,187	1,354	+14%	+1%
	営業損益	77	70	▲9%	▲90%

## 第4四半期実績（1-3月）

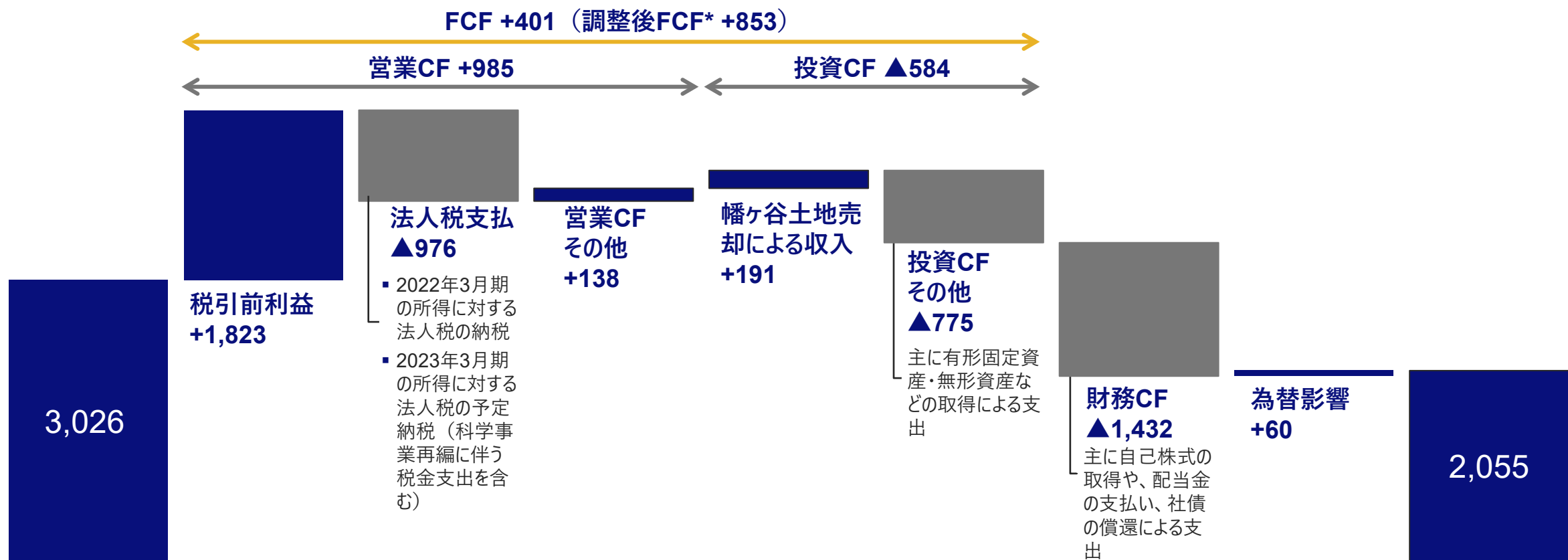
		第4四半期実績（1-3月）			
		2022年3月期	2023年3月期	前期比	為替影響調整後
		1,278	1,528	+20%	+10%
		416	421	+1%	▲19%
		719	843	+17%	+7%
		170	156	▲8%	▲23%
		32	33	+2%	▲3%
		▲5	0	+5億円	+5億円
		▲141	▲136	+5億円	+12億円
		2,029	2,404	+18%	+9%
		440	440	0%	▲23%
		362	444	+23%	+12%
		10	56	+439%	+263%



# 2023年3月期 通期実績 サブセグメント別売上高成長率

	1Q		2Q		3Q		4Q	
	円ベース	為替影響 調整後	円ベース	為替影響 調整後	円ベース	為替影響 調整後	円ベース	為替影響 調整後
消化器内視鏡	18%	5%	17%	1%	27%	10%	19%	9%
外科内視鏡	11%	▲1%	4%	▲10%	7%	▲7%	33%	22%
医療サービス	17%	5%	25%	8%	27%	10%	15%	5%
<b>内視鏡事業合計</b>	17%	5%	17%	1%	24%	8%	20%	10%
消化器科（処置具）	14%	5%	15%	3%	12%	2%	17%	9%
泌尿器科	18%	4%	24%	4%	22%	3%	22%	10%
呼吸器科	7%	▲5%	9%	▲7%	14%	▲2%	11%	2%
その他の治療領域	12%	2%	12%	▲1%	8%	▲5%	16%	7%
<b>治療機器事業合計</b>	14%	2%	16%	1%	15%	0%	17%	7%
（参考）ライフサイエンス	-	-	▲4%	▲17%	26%	11%	14%	4%
（参考）産業	-	-	19%	2%	32%	14%	31%	20%
（参考）非継続事業合計	-	-	10%	▲6%	29%	12%	23%	12%

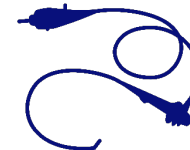
# 連結キャッシュフロー 増減要因



## \*2023年3月期通期（4-3月）の主な特殊要因

営業CF：科学事業の分社化に伴う税金支出・投資など	▲424億円
営業CF：海外子会社における年金資産の追加拠出	▲122億円
投資CF：幡ヶ谷土地売却による収入	+191億円
投資CF：投資有価証券、事業・子会社の取得など	▲76億円
投資CF：科学事業の分社化に伴う一時的な資金負担など	▲21億円

# プロダクトパイプライン：内視鏡事業 (2023年5月12日時点)



## 2024年3月期の内視鏡事業における重点施策

- 欧州、日本、アジア一部地域において、消化器内視鏡システム「EVIS X1」を拡販
- 米国は2024年3月期中頃に「EVIS X1」を導入することを目指し、中国は導入準備を進める
- 欧州、日本で次世代超音波内視鏡システムの導入を準備
- 新興国の市場ポテンシャルを最大化し、中国では売上を拡大
- 外科内視鏡分野においては、次世代外科内視鏡システムの導入により、収益性を改善

### 現在の主力製品

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1 (欧州、日本、アジア・オセアニア)
- EVIS EXERA III (米国、欧州)
- EVIS LUCERA ELITE (中国)

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE II 2D/3D/IR機能 (米国、欧州、日本、中国)
- VISERA 4K UHD (米国、欧州、日本、中国)

### 直近の新製品 / 発売予定の製品

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1 (米国)
- EU-ME3 (欧州、日本、アジア・オセアニア)

#### 外科内視鏡

- VISERA ELITE III (欧州、日本、アジア・オセアニア)

### 中長期のパイプライン

#### 消化器内視鏡

- EVIS X1 (中国)
- シングルユース十二指腸内視鏡
- 内視鏡CADプラットフォーム ENDO-AID (日本、米国)

#### 外科内視鏡

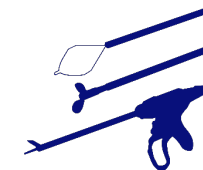
- VISERA ELITE III (米国)

# 4%

2024年3月期  
売上高成長率<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 円ベースの成長率

# プロダクトパイプライン：治療機器事業 (2023年5月12日時点)



## 2024年3月期の治療機器事業における重点施策

### 消化器科

- ERCP、ESD、メタルステント、止血デバイス など主要カテゴリーにおいて、臨床的に差別化された製品ポートフォリオを拡充

### 泌尿器科

- 主力製品の経尿道的切除術をサポートするTURisシステムの売上および利益の拡大に加えて、iTindの市場開拓を通じて前立腺肥大の分野で業界をリード
- SOLTIVE SuperPulsed Laser System により、結石破砕治療における成長を拡大

### 呼吸器科

- 肺がん分野において、最新のEBUS-TBNAに一層注力し、欧州・アジア地域におけるSPiN Navigationの市場拡大を推進
- 「EVIS X1」プラットフォームの導入促進を継続し、気管支鏡の強みを強化

## 現在の主力製品

### 消化器科

- Visiglide
- ESD Knife
- EZ Clip / QuickClip Pro
- EndoJaw

### 泌尿器科

- 前立腺肥大症治療用切除デバイス
- ツリウムファイバーレーザー装置 SOLTIVE SuperPulsed Laser System (米国、欧州)

### 呼吸器科

- 気管支鏡、超音波気管支鏡
- ViziShot
- スパイレーションバルブシステム
- EVIS X1 気管支鏡 (日本、欧州、アジア)

## 直近の新製品 / 発売予定の製品

### 消化器科

- 3製品 (米国)
- 6製品 (欧州)
- 6製品 (日本)

### 泌尿器科

- ESG-410 (米国、日本、アジア)
- シングルユース尿管鏡 (米国、日本)
- iTind (米国、欧州、アジア)

### 呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (米国)
- シングルユース気管支鏡 (米国)
- 新超音波気管支鏡 (米国、中国)
- EVIS X1 気管支鏡 (米国)
- 超音波プロセッサー (欧州、日本、アジア)

## 中長期のパイプライン

### 消化器科

- シングルユース胆道鏡

### 泌尿器科

- 膀胱鏡
- カメラヘッド(CH-S700-08-LB 4K L-shape Camera Head)

### 呼吸器科

- 電磁ナビゲーションシステム (欧州)
- 細径超音波気管支鏡
- EVIS X1 気管支鏡 (中国)

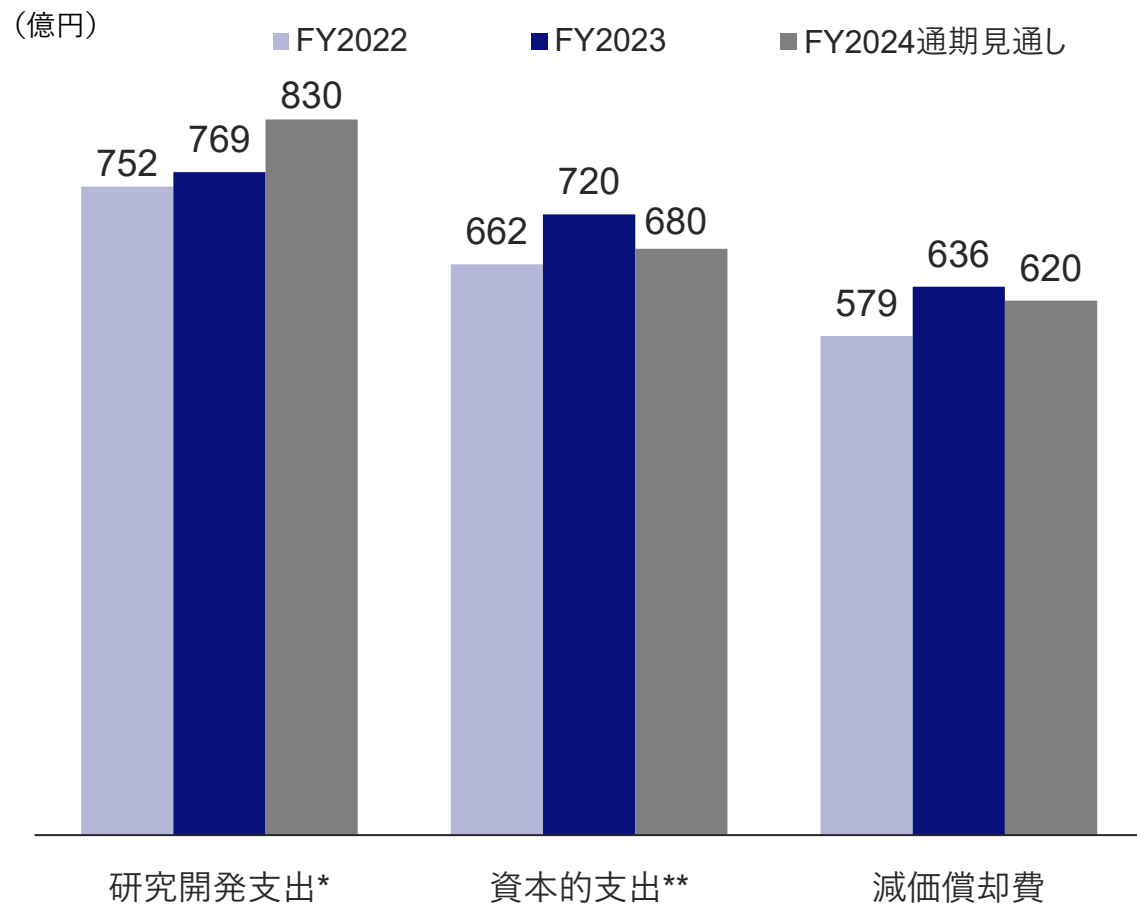
\*注：医薬品医療機器等法未承認品など、一部地域における未承認、未発売の技術を含む製品、デバイス情報が含まれております  
1 円ベースの成長率

# 3%

## 2024年3月期 売上高成長率<sup>1</sup>

# 投資など

## 通期実績（4-3月）および通期見通し



(単位：億円)

	FY2022	FY2023
研究開発支出* (a)	752	769
開発費資産化 (b)	116	126
損益計算書上における 研究開発費 (a-b)	636	643



(単位：億円)

	FY2022	FY2023
償却費	67	84
	2022年12月末	2023年3月末
開発資産残高	534	536

\*研究開発支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています

\*\*資本的支出には、開発費資産化(b)の数値が含まれています。また、2021年3月期よりIFRS第16号「リース」を適用し、資本的支出には下記使用权資産が含まれています。(FY2022通期：147億円、FY2023通期：105億円、FY2024通期見通し：90億円)

# 財務ガイダンスおよび参考指標

		FY 2023 目標	FY 2020 実績	FY 2021 実績	FY 2022 実績	FY 2023 実績
 財務ガイダンス	調整後 営業利益率*	>20%	13.5% 1,021億円	→ 14.1% 1,031億円	→ 20.1% 1,507億円	→ <b>20.0%</b> 1,768億円
	調整後 FCF成長率	>20% 2020年3月期を 起点とするCAGR	-% 711億円	→ +11.6%** 794億円	→ +35.9%** 1,313億円	→ <b>+6.2%**</b> 853億円
	調整後 ROIC	>20%	10.7%	→ 10.3%	→ 17.1%	→ <b>18.4%</b>
 参考指標	調整後 EPS成長率	>25% 2020年3月期を 起点とするCAGR	-% 45.49円	→ +37.2%** 62.42円	→ +46.6%** 97.73円	→ <b>+35.8%**</b> 113.86円

注：特殊要因調整後 \*継続事業のみ \*\*FY2020を起点とするCAGR



# 為替レート及び為替感応度

通期見通しの前提となる為替レートは、直近1ヵ月間の平均値を原則としている

## 為替

(単位：円)	FY2022 1Q	FY2022 2Q	FY2022 3Q	FY2022 4Q	FY2023 1Q	FY2023 2Q	FY2023 3Q	FY2023 4Q	FY2024見通し
円／USドル	109.49	110.11	113.71	116.20	129.57	138.37	141.59	132.34	132
円／Euro	131.96	129.84	130.07	130.39	138.12	139.34	144.30	142.10	144
円／CNY	16.96	17.02	17.78	18.29	19.58	20.19	19.87	19.34	19

## 為替感応度（年間）

(単位：億円)	売上高	営業利益
ドル（1円あたり）	25	7
1ユーロ（1円あたり）	16	6
人民元（1円あたり）	58	35

\*為替感応度（年間）はFY2023Q4実績より算出しています。